

この夏休みには「新聞を読む習慣」を身につけよう

- 小学生は20分、中学生は40分、高校生は60分以上新聞を毎日読んで考えよう -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：なぜ塾長は「この夏休みには新聞を読む習慣を身につけよう」と言うのですか。

A：(林明夫。以下省略)夏休みは時間がたっぷりありますから、普段はなかなかできないことにじっくり取り組むよいチャンスだからです。

皆様にもいろいろやりたいことがあるでしょうが、私が一番おすすめしたいものの一つが「新聞を読んで考える」ことです。

Q：新聞を読んで何を考えるのですか。

A：皆様は、新聞を最初のページから最後のページまですべてゆっくりと読んだことがありますか。家でとっている新聞を、一度、何時間かかけて、スミからスミまでゆっくりとなめるように読んでみることをおすすめします。(家で新聞をとっていない人は、学校の図書室や図書館に行って読んで下さいね。)

何回か、新聞を一面から最後のページまでゆっくりとなめるように時間をかけて読んでみると、新聞にはどのようなことが書かれているかが少しずつわかってきます。

何が書かれているかがわかってくると、世界のことやアジアのこと、日本のことや地域のこと、身のまわりで起こっていることが新聞を通して少しずつわかってきます。世の中でどのようなことが起こっているのかが少しずつわかってきます。

世の中で起こっている様々なことのうち、その新聞社がこれは読者の皆様に伝えなければならないと選びに選び抜いたものが新聞であると言えます。

たとえば、この6月は、「足利事件」が大きく報じられました。殺人事件の犯人とされて有罪の判決が下り、刑務所に入れられていた菅谷さんという方の無罪が証明されたために、釈放された事件です。どの新聞にも一面と社会面で大きく報じられました。

なぜ警察は菅谷さんを犯人として逮捕してしまったのだろう。なぜ菅谷さんは自白をしてしまったのだろう。なぜ検察官は菅谷さんを犯人として起訴してしまったのだろう。なぜ証拠の鑑定をした人は菅谷さんに不利な鑑定をしてしまったのだろう。なぜ裁判官は有罪の判決を何回も下してしまったのだろう。

各新聞社の記者の方々は、一体何がどうして起きてしまったのかを、文字通り夜を徹して取材し、気の遠くなるような膨大な情報を手に入れてから記事を書き、編集長の編集を経て、読者の皆様に伝えて下さっています。

この「足利事件」の記事が出ている新聞を読んで私たちが何を考えるべきかといえば、たくさんあります。たとえば、真犯人をどうしたら時効成立前に逮捕できるか、児童殺人事件をどうしたらなくせるかは、皆で考えなければならない問題です。

無実の人を逮捕、起訴、有罪にしないためにはどうしたらよいかも考えなければならない大きな

テーマです。

自分がやっていないことで逮捕、起訴され、裁判にかけられたらどうするか。有罪判決を受けてしまったらどうするか。これは、自分のこととして考えなければならない大きな問題です。

Q：なんだか大変なことになってきましたね。新聞を読んで考えると、どのような能力が身につくのですか。

A：「批判的思考能力」が身につくと私は考えます。世の中や、自分の目の前で起きていることが果して正しいことなのかどうか、もしかしたらおかしいのではないかと、間違っているのではないかと自分で考える力が身につきます。

自分の行動には自分で責任を持たなければならないことを、「自己責任」と言います。新聞を読んで考えることにより「批判的思考能力」を身につけることは、「自己責任」の前提条件と言えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：新聞を読むと世の中のことがわかりますから、将来どのような仕事に就けばよいかを考えるときにも役に立ちます。何のために勉強するのか、何のために進学するのか、進学したところで何を学んだらよいか少しづつわかってきますよ。

新聞のスポーツや科学、読書、料理、文学、将棋、囲碁、健康のページは最高です。投書や意見、人生相談のページも面白いことこの上なしです。

この夏休みには、新聞に親しんで下さいね。新聞を読んで考える能力は、自分自身で生き抜く力をつける上で、一生役に立ちますよ。

- 2009年6月15日記 -

塾長紹介

- ・宇都宮大学大学院工学研究科 客員教授
- ・マニー株式会社(ジャスダック・Jストック、手術用縫合針製造) 社外取締役
- ・社団法人経済同友会(東京) 幹事